



# くすい箱

発行  
 桐生厚生総合病院 薬剤部  
 発行責任者 田村 潤一  
 編集担当者 根岸 由美  
 亀岡 桐代

2008年12月発行

**医薬品には「医療用医薬品(処方薬)」と「一般用医薬品(市販薬)」があります。違いをご存知ですか？**

**第10回目のテーマは、「医療用医薬品と一般用医薬品」です。**

## 医療用医薬品は・・・

医師が診察し患者さんに最も適した薬を処方して、それに基づいて薬剤師が調剤する薬です。洋服で例えれば注文服のようなものです。

## 一般用医薬品は・・・

薬局のカウンター越しに薬剤師と相談して購入する医薬品なので、英語の「Over The Counter」の頭文字をとって“OTC薬”ともいいます。医師に診てもらうほどではないけれど、体の調子が悪いときに自分の判断で購入して用いる薬です。

薬局で買える薬はいろいろな人が買うので、誰でも安心して買えるように効き目を抑え、安全性を重視したものになっています。ほとんどは複数成分の入った配合剤で洋服に例えれば既製服のようなものです。



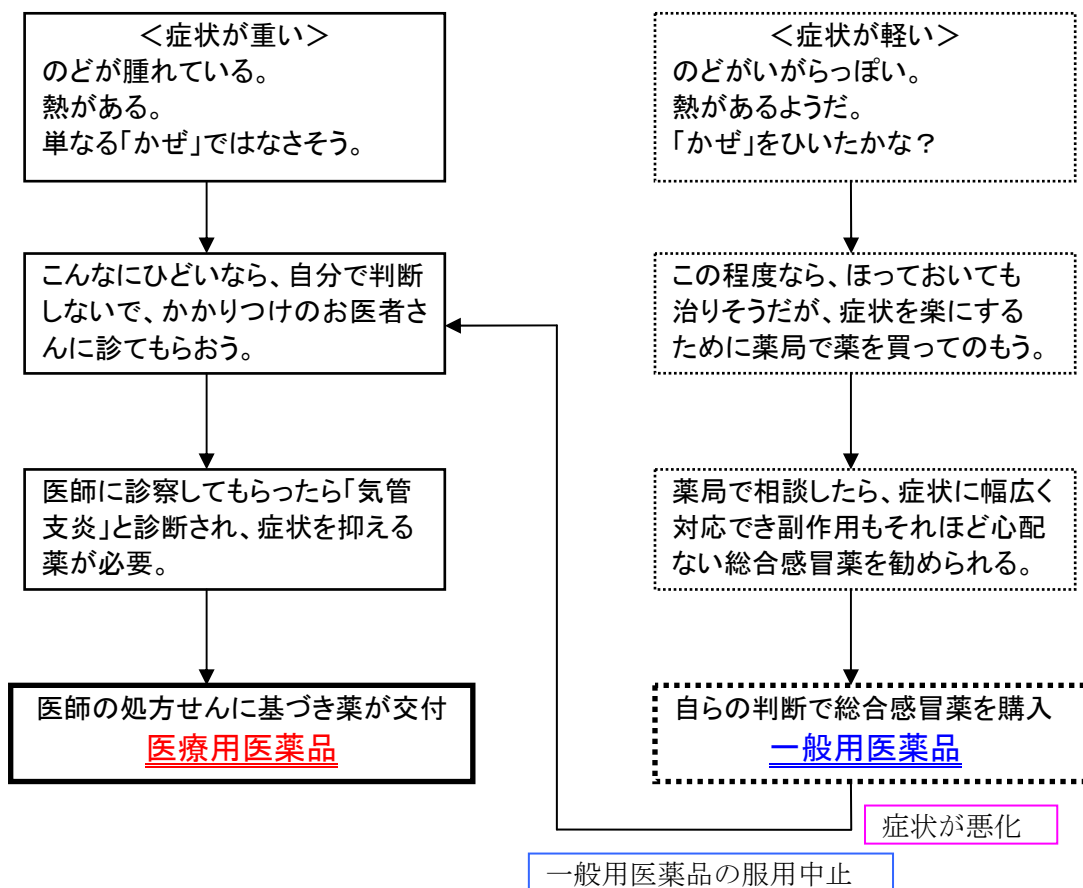
## 「医療用医薬品」と「一般用医薬品」の違い、特徴をまとめてみました

	医療用医薬品	一般用医薬品
他の呼び名	処方薬	市販薬, OTC薬, 大衆薬
薬の目的	医師の処方または指示によって使用される	一般の人が自らの判断で購入, 使用する
購入方法	医師の診断の元に出された処方せんが必要	自分で選んで買うことができる
成分	1つの薬に1つの成分を含む	1つの薬にいろいろな成分を含む
特徴	症状ごとに処方される 熱に解熱薬, 咳に鎮咳薬など	症状ごとではないため、初期のうちは無効であるが、進行した場合は向いていない
効き目	効き目が強い	有効成分が少なめになっているものが多い
副作用	効き目が強い分、副作用が現れることもある	副作用も少ないといわれているが、体質などにより現れることもある
対象	患者一人一人に応じている 医師が患者の症状, 体質にあわせて薬の種類や量を定める	患者一人一人に応じていない
値段	国で決められている値段がある(薬価) 全国どこでも同じ金額	店や日によって変わることがある



## 使い分け例です

(厚生労働省 HP:「医療用医薬品と一般用医薬品の比較について」より)



### 「医療用医薬品」使用上の注意・・・

- 決められた量を決められたときに使用しましょう。
- 自分の判断で中止することは、かえって病気や症状を悪化させることがあります。
- 処方された薬は“その人の、その時のための”処方です。他の人に勧めたり、譲ってはいけません。



### 「一般用医薬品」使用上の注意・・・

- アレルギーがある場合、妊娠または授乳中、他の薬をのんでいる場合など薬剤師に相談しましょう。
- 薬についている説明書を必ず読んで、用法・用量を守りましょう。
- 一定期間使用しても症状がよくならなかつたら医療機関を受診しましょう。



### 一般用医薬品の中のスイッチ OTC とは・・・

医療用のみで使用が認められている成分のなかで、比較的副作用が少なく、かつ安全性の高い成分について一般用医薬品に転用(スイッチ)され、薬局で買えるようになった薬のことです。元来医師の診断がなければ使用できなかった薬ですから効き目は強く、その反面副作用や相互作用について注意が必要です。改善が見られない場合は、医療機関を受診しましょう。

**のんでいる薬がある方は(医療用でも一般用でも)必ず申し出てください。  
注意を守り、安全で効果的に薬を使用しましょう。**

**次回は、「薬と食べ物について」のテーマで、2009年3月発行予定です。**